

共同研究 二神家・二神島の歴史・民俗研究

研究課題と目的

前田 禎彦

2008年度から日本常民文化研究所（常民研）が進めてきた「共同研究 瀬戸内海の歴史民俗」が2015年度に一段落を迎え、その調査・研究の成果が着々と刊行されつつあります。主なフィールドとしてきた二神島（愛媛県松山市）についても、『島の写真帖—二神島写真資料集』や『二神司朗家文書目録』・『二神司朗家文書 中世・系図編』などが既に刊行されています。

2016年度からは以上の成果を踏まえつつ、さらに積み残してきた部分も含め、所員・田上繁、小熊誠、前田禎彦の3名を中心に二神島及び二神家の歴史民俗研究を継続することになりました。その目標は、

1. 松山市栗井地区の二神家関連資料を調査し、中世二神家の活動の多面性を明らかにする。
2. 近世二神家文書の整理・読解をさらに進め、近世二神家の活動を明らかにする。
3. 「二神系譜研究会」の活動状況を調査・分析し、その社会的意義を明らかにする。



写真1 二神司朗家文書。右から／巻一「自河野家感状并諸書附 一 二神氏」、巻二「自河野家感状并諸書附 二 二神氏」、巻三「二神文書 三」、巻四「二神文書 四」



写真2 二神島の風景

の3点で、共同研究は全体で3年計画とし、2016年度より2年間を調査期間、2018年度を成果報告の年といたします。

2016年度は、①愛媛県立図書館所蔵の伊予史談会文庫に含まれる二神氏関係文書の写本調査、②長隆寺（愛媛県松山市中島）に伝来し、現在は四国八十八箇所霊場の第五十二番札所として知られる龍雲山護持院太山寺（愛媛県松山市太山寺）に保管されている忽那氏関係の中世文書の調査、③二神島の二神司朗氏旧宅に一部残存する近世・近代文書の現状調査などを行いました。今後は、二神島に伝来した二神司朗家文書（常民研所蔵）との関係に留意しながら、中世から近世にかけて伊予本土でも活動した二神氏の全体的動向を探ることを目的に調査を進め、二神氏関係史料の集積を目指していきたいと考えています。

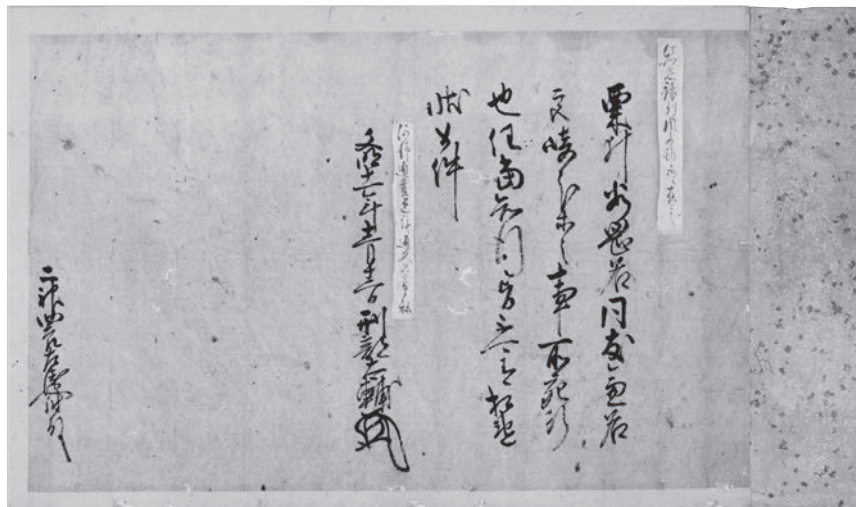


写真3 河野通直（教通）宛行状 卷一-1